

総合分析

試験区分	一般（後期）
------	--------

制限時間	60分（理科2科120分）	大問数	全4問
------	---------------	-----	-----

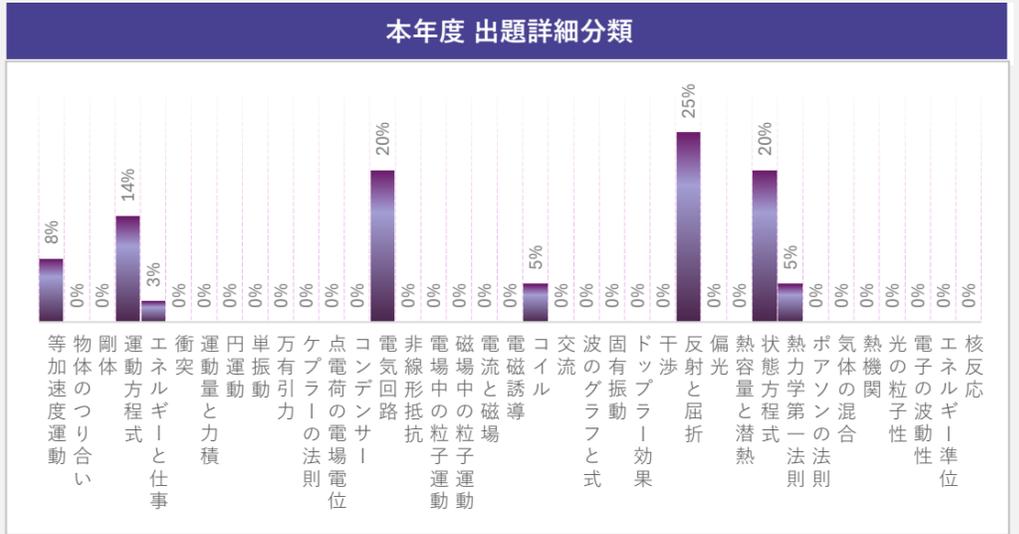
合格に要する能力（5段階）



出題分野	
力学	25%
電磁気学	25%
波動	25%
熱力学	25%
原子物理	0%

本年度出題テーマ一覧	
第1問	摩擦のある斜面上の物体の運動
第2問	RL直流回路
第3問	見かけの深さ
第4問	水槽に沈められた封入気体の状態変化

本年度 解答形式		
答えのみ記述	穴埋め記述	論述
50%	25%	25%



合格に要する能力（5段階）		
基礎力	2.4	原理についての理解
応用力	2.6	演習経験による慣れ
知識力	2.0	用語を正確に覚えているか
把握力	2.6	臨機応変に状況を把握する力
見極力	3.0	解きやすい問題を選択する力

特殊問題の有無	近似計算なし	グラフあり
正誤問題なし	理由記述あり	数値計算あり

特記事項 第3問は設問が曖昧であり題意を読み取って解答することが難しい

総合評価

難度	2.6	最難を5とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率（予想）	72%
分量	47分	完答に要する時間（制限時間は60分）	やや少ない	高い正答率を要する	

入試の特徴と対策

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。

入試から見る 大学が求める学生像

全般的に前期試験よりも易しい問題で構成され、試験時間も十分に取られている。第3問は何を求めるとかが曖昧であり「設問が成立するように題意を汲む」という技術を要するが、これがアドミッションポリシーとは思えない。この出題傾向が続くとも思えない。恐らく単なるイレギュラーだろう。他のレギュラーだと思われる問題からすると、標準的な問題演習を着実にこなし、解法を身につけてきた堅実な学生を求めていると考えられる。